



大阪部会(第6回)

日 時: 2008年3月22日(土)18:30~20:00

場 所: 同志社大学 大阪サテライト

【内容要旨】

- (1) 第6回目の部会は14名の参加者で開催された。まず初めに、経済教育ネットワークの篠原総一代表者から、3月20日に開催された広島でのワークショップについての報告があった。さらに今後、経済教育ネットワークが主催する年次大会(同志社大学で開催)、シンポジウム(日本大学で開催)、および、高等学校の先生を対象にした研修会(東京と大阪で開催)の日程について報告があった。その折、年次大会とシンポジウムで依頼したい講演者の推薦について、後日メールで連絡して欲しい旨の要望があった。
- (2) 続いて、丹松美代志氏(池田市立細河中学校)が、昨年11月に開催された全国中学校社会科教育研究大会(千葉大会)で配布された社会科学習指導案(公民的分野)の資料について説明された。単元名は「私たちの生活と経済～「お金」は天下のまわりもの」で、当該授業の目的は、「お金を使う・貯める・得る・借りる」という行為を通じて、より良い社会生活を送るために必要な知識や方法を習得することにあった。資料の説明の後、この授業についての意見交換が行われた。まず、「お金」を軸にして単元を組み立てていることについては大変面白い。最近、中学生にはストーリー性(たとえば、「企業をつくろう」というテーマ)を持たして教えるほうが有効なので、その点からも大いに評価できる。ただ、単元の中でクレジットカードを取り上げているが、全体的な授業の流れの中でこれを教える積極的な意義が見付けにくく、むしろ労働の問題や年金の問題との絡みを入れるほうが、さらに興味深くなるという意見もあった。
- (3) 篠原総一氏が3月の東京部会で話題になった「経済の基本問題の考え方と教え方」を紹介され、それについての意見交換がなされた。その中で、需要曲線と供給曲線の意味を教えずに、市場の均衡価格について教えることの不毛さについての指摘があった。現実には、市場価格には、差別価格、二部料金、ピークロード・プライシングなどさまざまな形態があり、これらと競争価格との違いを生徒たちに理解させる方法が可能か否かについて議論された。そこで、次回の部会で西村理(同志社大学)が暫定的な教材を示して検討することになった。
- (4) 最後に、山本雅康氏(奈良学園中・高等学校)から経済用語の詳細な解説についての要請があった。たとえば、「資本の自由化」という項目では、どのようなプロセスを辿りながら資本の自由化を進めてきたのか、具体的な経過を示した解説である。そこで、解説の必要な経済用語を山本雅康氏にピックアップしてもらうことにした。

(文責: 西村理)